

CONTENTS

- 1-2P : AES 展示会レポート in New York
- 3P : AES STUDIO レポート
- 4P : SE Electronics レポート
- 5P : 第 5 回 TAC セミナー開催レポート
- 6P : Waves APA32 and APA44-M !
- 7P : プロツーセブンがやってくる！ ProTools7 て何？
- 8-9P : 導入事例
- 10P : 新製品紹介
- 11P : 第 10 弾 Dr. 新田の事件簿シリーズ
- 12P : USER'S Voice & Another..



AES展示会にて

AVIOM社 先例のないオーディオネットワークシステムを発表！

>>> AES レポート in New York (1p)
by Yamamoto

今年の AES アメリカはニューヨークの JACOB JAVITS CONVENTION CENTER で 4 日間開催された。

会場は連日天候が思わしくないにもかかわらずかなりのにぎわいを見せていた。とは言うものの各ブースにおいて一般客は増えたが、ビジネス目的の来場者はやや少ないように思えた。アメリカでのレコーディング業界の衰退がこんなところにも表れているのだろうか ... ?

さて、展示物の傾向としては数年前のハイビット / ハイサンプリングレート等といったスペック争いも既に落ち着き、入り口のマイクやマイクアンプ、出口のスピーカーがしっかりと生き延びていた感じを受ける。逆に言うとサウンドのプロセスを司るアウトボードは勢いを失い、DAW も目新しいアイテムが出現しないまま今回の AES に突入してしまったところだろう。となると後はサラウンドに行くしかないのか ... ?

そんな中、弊社で扱っている AVIOM 社が随分成長していた。何度かこの TACInformation のバックナンバーでも目にして頂いていることと思いますが Ether ケーブルを使用した伝送システムが面白くなってきた。同様の Ether ケーブルを使用するシステムは他に何社ありますが、各々はデータの互換性がありません。よってシステムの内容に各社の特徴が反映され、生き残り合戦を繰り広げています。こと AVIOM 社に至っては CUE BOX システムとして登場したが、今回は新たなプロトコルによる 64in64out の計 128 ch の音声を 1 本の Ether ケーブル (Cat-5) で伝送出来るシステムを発表していた。

今後は同様の伝送システムやソフトウェアの開発が業界の主力商品となる事でしょう。では、各社の新製品をレポートします。

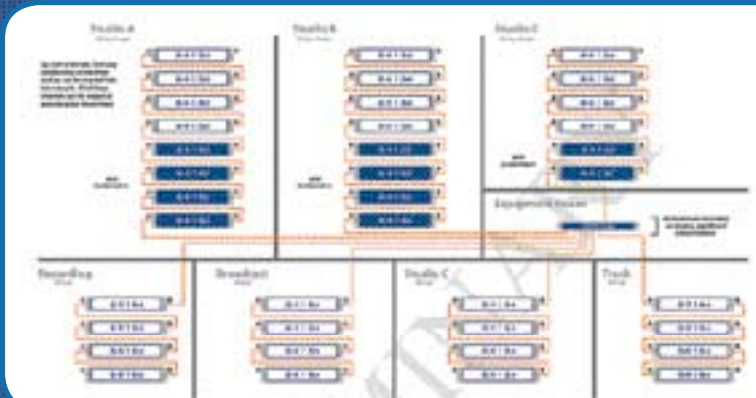
■ AVIOM ブース

AVIOM 社は今回、なんと会場内の通りを挟んで 2 コマ + 4 コマの計 6 コマで展示を行っていました。会場内を歩いていると右も左も AVIOM となり、面白い出展方法だなあと感心してしまいました。

今までのラインナップ PRO16 に加えて、新しいプロダクト PRO64 システムを発表し、PRO64 の展示に力を入れていました。

■ A-Net と PRO64 の伝送システムとは？

従来の PRO16 に比べ新たなプロトコルを使い、先例のないオーディオネットワークシステムとして開発されました。PRO64 は、非常に低いレイテンシー (0.88mS) で可変サンプリングレートに対応し、同時に何ヶ所かの双方向オーディオコミュニケーションとデータ転送を可能にする画期的システムです。全てのラインアップが最大 192kHz でのサンプルレート処理が可能で、最大 64ch の Input と 64ch の Output を 1 本の Cat5e ケーブルで伝送することが出来ます。又、VDCs (パーティシャルデータケーブル) と称し RS232 と MIDI、GPIO を 4 系統を伝送することも可能です。PRO64 は LightViper の Optical 転送を用いる事により最長約 2km まで延長が可能となり、各ユニットを超えてチャンネルをフレキシブルに設定する事も出



(VDCs の設定パネルと背面入出力パネル)



発売時期：2006 年 Q1
6416i：16ch の INPUT
6416o：16ch の OUTPUT
発売時期：2006 年 Q2
6416m：16ch のマイクヘッドアンプ
6488io：8ch ずつの INPUT / OUTPUT
6416dio：16ch (ANALOG 換算時) の AES/EBU を伝送可能

上記の発売時期は米国の時期ですので日本での弊社発売時期は 2006 年度中です。また、価格につきましても未定ですが、InterBEE には AVIOM 社から 4 人来日し、新しいプロダクトについてのご説明をさせて頂く事ができますので、詳しくは InterBEE 弊社ブースにお越しください。

■ Digidesign ブース

新機能を盛り込んだ ProTools7 Software が発表されました。ブース内は相変わらずの賑わいで、デモンストレーションは常に黒山の人だかりでした。(ProTools7 の新機能については p.7 にて)
ICON の導入が全世界で 700 台を超えたといった発表もあり、ブースサイドに大きく飾られた 2 枚のパネルが特に象徴的だった。(ワーナースタジオ、ジョージマッセンバークスタジオ) 半ば余談ではあるがマッセンバークスタジオの無数のディフューザーはマッセンバーク自身で積み上げたものらしい。



■ CB Electronics ブース



シンクロナイザーで有名な CB より、USB422 (約 30,000 円) という USB と RS422 9pin マシンコントロールを変換するインターフェイスが発表された。2 ポートの 9pin の内一方は O or I/P 対応である。
オプションで Video リファレンスを受ける。Tx と Rx が LED に

■ SE Electronics ブース

弊社にて新たに取り扱いを開始した SE Electronics のコンデンサーマイクに、リボンマイクの R-1 が仲間入り。未だ試作品ではあるが、他のシリーズと同様にイギリスのメーカーらしい気品さを感じられる。どんなサウンドか楽しみだ。



■ Syncheck ブース

便利グッズとしてプラズマディスプレイなどの表示ディレイタイムを音声に対し何 ms 遅れるかを検出して表示する Syncheck (約 35,000 円) という測定器が展示されていた。これは MA スタジオでは重宝する事でしょう。発売が待ち遠しい一品です。



■ PrincetonDigital ブース

銘機、Eventide Plate2016 Reverb が Princeton Digital 社から ProTools プラグインになって蘇った!! 弊社でも取り寄せできるようになりました。
R-2016TDM (予価は税込 84,000 円)。



■ M-Audio ブース

ProjectMix I/O (US\$999) は FireWire 接続の小型ミキサー兼コントローラーです。MIDI にて HUI プロトコルをサポートしているので ProTools にも対応しています。このクラスで Jog/Shuttle 機能付きは注目です。(US\$ 999,-)



■ Royer ブース

スタジオでもお馴染みになってきた弊社取り扱いの Royer から、チューブリボンマイク「R-122V」が発表されました。これは R シリーズの 3 作目で R-122 がベースになっている。アンプ部には 6AU6 バキュームチューブを使用し、Royer 独自の暖かいサウンドに図太さを追加。本物だけが出来る新たなリボンの常識!! ... 驚異です。



■ Millennia ブース

ますます面白くなってきた Millennia。昨年に比べブースの広さも 2 倍になり派手さも増してきた。未だ試作品ではあったがリモート HA の「HV-3R」には多くの注目と期待が集められていた。基本的には同社の HV-3 ソリッドステートアンプがベースになっている。MIDI コントロールまたは Ether による PC コントロールで 1dB ステップのオペレーションが 6 台分 (48ch) 可能である。Digidesign の ICON にも対応しそうだ。更にヤマハの MY シリーズカードが対応し、AD カードが実装した状態で展示していた。来春の発売が待ち遠しい。既に発売されている HV-3C に AD コンバーターが追加された「HV-3C24」も発表された。192KHz/24bit の AES/ EBU



■ TranzPort ブース www.frontierdesign.com



FrontierDesignGroup 社の TranzPort ワイヤレスリモートコントローラは、全米でも大変人気商品らしく、ブースも大きくなり各社の DAW に対応する機能も充実してきました。
2.4GHz のワイヤレスでタイムコード表示から各種レベルコントロールやトランスポート (JOG/Shuttle) に対応する為、今後の新しい展開が期待されそうです。
日本からも、プロサウンド誌の取材があり、開発者の Charlie Hitchcock 氏のインタビューもありました。



インタビュー中の Charlie Hitchcock 氏

毎年秋の AES がアメリカ各地で行われる中、今年も TAC ツアーは、AES 終了翌日バスをチャーターしスタジオ見学ツアーを行いました。メンバーは、メーカー、業者、楽器店、放送局、エンジニア等様々ですが、それぞれの視点で勉強し、情報を共有する場として毎年行っているもので夜の反省会 (TAC パー) 迄毎日盛り上がっていました。ちなみにニューヨークのレコーディングスタジオ事情についても現地の方にいろいろ聞いてみたのですが、なかなか厳しいようでスタジオをクローズしたところもいくつかあり統廃合されたり、売りに出ている話もありました。その中で今回老舗でもある Sony Music Studio と、つい最近 ICON システムを導入された Jazz at Lincoln Center と、ポストプロの GIZMO Studio を訪問した部分をレポートします。



深夜の Tac パー



TAC ツアーバスの中

■ Sony ミュージックスタジオ <http://www.sonymusicstudio.com>

URS(プラグインソフト)の Bobby 氏の紹介で SONY スタジオをじっくり見せていただきました。ProTools は、ここだけで 21Set 導入しているとの事で、レコーディングスタジオ 7 室、マスタリングスタジオ 9 室、ビデオ / ポスト 4 室、オーディオ / ポスト 6 室、メインステージ 3 室等々を持った巨大スタジオで著名アーティスト専属の部屋を持ち世界中のありとあらゆる機材を所有している事とあらゆる音楽の発信拠点として活躍しているスタジオです。



レコーディングスタジオ B



往年の名器 (スカーリー・カッティングマシン)



Room311 AMS/LogicMMC DSD 多チャンネル



マスタリングルーム



右センターセクションに Surround Pan-



コントロールルーム

■ Jazz at Lincoln center STUDIO

2004 年 2 月にミッドタウン北側のコロンブスサークルにタイムワーナーセンタービルがオープンし、その中に 3 つのジャズ専門ホールを持つ Jazz at Lincoln Center が出来た。と、ここまではよくある旅行雑誌に書かれています。我々が見学したのは、そのホールではなくそのホールに併設されているサテライトラジオ放送局の録音スタジオです。

このスタジオの入り口の廊下に面しているマシンルームを横目に見た瞬間、参加者は皆、足を止め、写真を撮り「オー！」と日本語で歓声あげてしまう程のラック群 (写真 1、2) まるで Digidesign のショールームのようです。

計 32 台で 4 式の 19 21/0 システム 圧巻です。

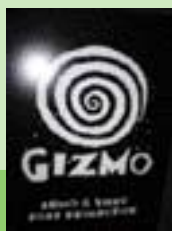
そして、コントロールルームには 48 フェーダーの ICON D-Control と、そのセンターセクションには NewYork で初めてインストールされたとされるサラウンドパンナーが設置されていました。

このスタジオでは、MA の MIX 作業用としての (ラジオ向けのスタジオなのですがね、、、?) ワークビデオや ProTools も大容量のサーバーにダイレクトにアクセスし他のスタジオとは DigiDelivery で音源等のやり取りで行なうのが一般的との事でした。他にもマシンルームには DS-D98、EVERTZ、BIGBEN、DV-RA1000 等の見慣れた機器の他に自動的にサラウンド (5.1) をダウンミックスしたりアップミックスする為の機械も設置されていました。

コントロールルームには 5.1 チャンネル分のスピーカーと ICON D-Control と正面には Samsung の液晶テレビとミキサー席用にアーロンチェア、後ろにはクライアント用のソファーしか置かれていません、物理的なエフェクター類やパッチベイ等のアウトボードが全くありませんでした。

隣接している向こう側のラジオサテライト用のスタジオや、もう一つの小さなコントロールルーム (ここにも I-CON D-Control の 32 フェーダーだけが設置) そして、かなり大きめのスタジオブースには入る事が出来ませんでした。単体のスタジオ事業としてもかなり大きな規模のスタジオだと思われます。

併設されているコンサートホールとはリモート HA を使った回線 (おそらくアナログだと思われる) と MADI



GIZMO

■ GIZMO Studio

このスタジオにはサラウンドに対応した Audio Studio が 1 つと簡易防音ブースを持つ小さな Audio Studio が 2 つ、Video EDIT Studio が 3 スタジオある Audio & Video Post Production と看板にも書かれている通り作品を完パケまで作る事が出来るスタジオです。全てのスタジオの面積はかなり小さく思え、日本にもありそうな規模のスタジオです。スタジオの立地もミッドタウンのマディソンスクエアガーデンの F.I.T. 美術館の間あたりに位置する、日本で言う「雑居ビル」の中にありながら、コンパウトに集約されていました。MA ROOM もサラウンドに対応した 1 部屋は Dolby も DTS も完備されており、共通のマシンルームには

ビデオデッキや Apple X-serve 等もあり、Post Production の仕事は一通り



Video EDIT ルーム



MA ルーム



マシンルーム

SE SE Electronics



by Hirano



TITAN

クラスA FETの48Vファンタム・トランスレス・コンデンサー・マイクロフォン
 価格¥178,000 (税込み ¥186,900)
 かわいらしいドラムにも似たフォルムから想像できない、テクニウム・ダイヤフラム・カプセルを採用した実力派。ナローなイメージで指向性を3段階切り替えができる。また-10dBパッドとローカットフィルターが付いているので汎用性が高い。ナレーションやヴォーカル、アコースティック楽器にお勧めです。



GEMINI



ICIS

デュアル・チューブ・コンデンサー・マイクロフォン
 価格¥178,000 (税込み ¥186,900)
 音の大型リボンマイクを思わせる超重量級マイク。マイクロフォンの歴史上初のデュアル・チューブを採用しているのも珍しい。また35mmのラージ・ゴールド・ダイヤフラムから、ノイマンに似た素晴らしい音色が引き出せる。間違いなく存在No.1。

チューブ・コンデンサー・マイクロフォン
 価格¥88,000 (税込み ¥92,400)
 Z5600Aと同様の27mmラージ・ゴールド・ダイヤフラムを採用している。くせのない柔らかな音色とリーズナブルな価格は幅広いユーザーに好まれるでしょう。低価格で本物の音が欲しいければ、まずICISを選択するべきでしょう。



Z5600A



SE3

チューブ・コンデンサー・マイクロフォン
 価格¥105,000 (税込み ¥110,250)
 プロオーディオ誌で数多くのアワードを受賞した人気の高いマイクロフォンです。見た目にも機能的にもバランスのとれた1本。指向特性は9段階の可変式。音質的にはヴォーカル・レコーディングがお勧めです。

クラスA FETの48Vファンタム・コンデンサー・マイクロフォン
 価格¥40,000 (税込み ¥42,000)
 ステレオペア 価格¥89,000 (税込み ¥92,400)
 まず見た目を見ると「大きい」と思うでしょう。ペンシルタイプと言えば小型なのが一般的ですがSE3は二回りほど大きい。低音が顕著に引き締まって指向性もシャープである。価格を考えるとコストパフォーマンスは非常に高い。より正確なステレオイメージを保つために、ペアリングされたモデルも用意されています。アコースティック・ギターや弦楽器、そしてピアノの収録に最適です。

先日ニューヨークで行われたAESショーでもSE Electronicsは出展しており、いくつかインタビューしてきました。

1. SE Electronicsの設立について教えてください。
 2002年3月にJames Young (Managing Director)、Mitch Carey (Comms/Artists/CD)、Phil Smith (Financial Director)の3名でスタートしました。

3. 1号機はどのような仕様でいつ誰によって作られたのですか？
 現在の原型である1号機は2002年にSiwei Zouによって上海でデザインされました。それはOEM生産で現在も製造されています。後の2002年中頃にはSiwei自身のニューレンジマイクであるZ2200a、Z3300a、Z5600a、SE1a、SE2aのデザインに着手し、SE Electronicsブランドとして12月にイギリスで販売を開始しました。

4. ヘッドオフィスはイギリスですか？
 はいそうです。スタッフはイギリスに8名、他に上海に96名います。

6. 生産規模は？ (一ヶ月の出荷本数)
 大部分がイギリスとEUで、約3,000本です。今もなお増加しています。

7. 生産は中国ですか？
 はいそうです。ですが、SE Electronics専用のOEMラインがあります。日本製の部品も多用しています。

8. 品質管理はどのように行っていますか？
 あらゆるステップにQC (クオリティ・コントロール) モニターがあります。そしてマイクのセルフノイズと録取テストで完了されます。通常は、それが非常に時間がかかるので誰もしないでしょう。SE Electronicsの品質の高さはこれで保たれています。

13. メインユーザーは？
 私たちはREMと共にマイクの品質向上を目指しています。Stevie WonderがGEMINIを1ペア持っています。そして彼の意見を待っているところです。下記のアーティスト達は私たちのマイクのユーザーです。他にもどんどん増えています。

・ Jamie Cullum・Puff Daddy・BT (Brian Transeau)・Queens of the Stone Age・Guy Chambers・Eric Valentine・Paul Barrett



by Masuko



今回の TAC セミナーは3部構成という豪華な内容でした。おかげさまでご来場社数と豪華な講師の方々にも大盛況に終えることができました。今回のレポートで少しでも雰囲気伝われば・・・と思います。

■ 第1部：DAW の為のネットワークセミナー

講師は私『益子』。内容は ProTools と Apple OSX Server ソリューションを利用したネットワーク構築術や、HOW TO をメインに。果敢にも途中で Mac OS X サーバ 10.4 を参加者にインストール・設定をしていただくコーナーまでご用意でしたが、時間足らず！何とか無事に終わったような気がします。また Xsan 環境を実際に見て頂いた上で、AVID Mojo と ProTools システムを使った映像用 SAN の運用案も実演もしました。遂に Xsan も今後のプランに入ってくるのかと思っており、ある程度の未来をお見せ

できたのではないかと思います。また参加して頂いた方々も、これからのストレージに関して不満や不安も有るようで、積極的なディスカッションもあり、私もうれしく思っており



■ 第2部：TAC 新製品発表会

WAVES 日本支社の『榎本』様、デザイン・ジャパン『山崎』様を講師に迎え、I-CON/D-COM-MAND 等のコンソールラインナップのご紹介、導入事例のご紹介や設置における HOW TO。WAVES



の新製品『APA シリーズ』『MAXX-BCL』のデモンストレーションセミナーを行いました。特に APA は、実際にプラグインを立ち上げ、TDM と遜色の無いことを証明したり、MAXX-BCL もサウンドを堪能して頂きま



した。他にも弊社取り扱い製品 URS・GRM 等の Plug-in や無線でのトランスポートコントローラーの TRANZPORT のご紹介もさせて頂きました。APA は初お披露目だったこともあり、非常に注目されて

■ 第3部：サラウンドセミナー

講師に『大野』様を迎え、サラウンドにおける音楽収録のマイキングテクニックとミキシングテクニックを、実際にレコーディングされた素材と共に実演して頂きました。またマイキングテクニックにおいては理論を踏まえた講義をして頂き、大変アカデミックで貴重なセミナーでした。



■ 無事にセミナーを終えて・・・

やはり私も講師で参加させて頂いた関係で、3日間があっという間に終わった・・・と感じる程の充実した(疲れた！？)セミナーでした。また普段あまり接点の無い様々な方々とのコミュニケーションの場としてもご利用して頂く為、これからも続く TAC セミナー！次回もご期待ください。

AES 東京コンベンション 2005
プロダクト・セミナー参加レポート

[2005.7.12]

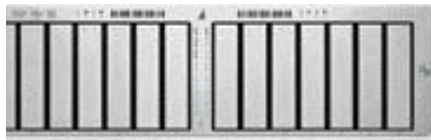
AES 東京コンベンション 2005 に出展・参加。その中のプロダクトセミナーブースにて『DAW におけるネットワーク術』セミナーを行いました。

当日はアップルコンピュータ『鯉田』様を迎え、アップル製品とサーバソリューションのご案内を含めた形で、ネットワークの構築・メリット等、様々な HOW TO や実際の導入事例等をご紹介致しました。ご参加して頂きました皆様、ご参加有り難うござい



ました。

新 XserveRAID 登場、遂に容量が 7TB になっ



どんなに容量があっても困らない XserveRAID が、最大で 7TB もの容量になりました。思えば発売当初 2.5TB だったんですから・・・もう 3 倍近くも容量が増えているんですね。それだけのアップデートではなく、初代と 3.5TB モデルまでは、Disk が UltraATA だったのに対し、先代と最新モデルでは SerialATA を採用。このおかげで読み込み/書き込み速度もスピードアップしています。そういえば、この原稿を作成してる間に、PowerMac G5 も新しくなり、PCI-Express Only のコンピュータになってしまいましたね。digidesign 関連の互換に関しては時間が解決するはずですが、ちょっと怖いのは、PCI カード版の FibreChannel カードが販売を終了してしまったら・・・もしも近々で RAID 等のご購入を検討されているのであれば、PCI 版の FibreChannel カードだけでも購

WAVES POWER

APA32 and APA44-M

Audio Processing Accelerators



皆さん初めまして。Waves Audio Ltd. (以下 Waves) 日本営業担当 榎本 涼です。
今回はハードウェア「APA」シリーズをご紹介します。Waves は、ご存じの通り元々オーディオエフェクトを開発・販売するソフトウェア会社でしたが、近年ハードウェア製品の開発・販売にも力を入れています。中でも APA は初のオーディオエフェクトアクセラレーター製品であり、Waves Plug-ins ソフトウェアと組み合わせて頂くことにより、これまでにないくらい多くのエフェクトを多用したミックスが可能となります。ぜひ音楽制作に役立ててください。

■ APA とは何か

製品名通り Audio Processing Accelerator (オーディオ処理アクセラレーター) です。もう少し詳しくご説明すると、数多くラインナップされる Waves オーディオエフェクト Plug-ins の中で APA に対応した Plug-ins の処理を APA 本体で行います。通常 CPU または Pro Tools の DSP で行うオーディオエフェクト処理を APA で行うことで、ホスト CPU または Pro Tools の DSP への負担を軽減することが可能です。

1) 従来製品が Firewire または PCI スロットを使用するのにに対し、APA はイーサネット端子を利用します。これは現在音楽制作用途に耐える PC/Mac のほとんどに同端子が採用されており、もっとも簡単かつもっとも汎用的な外部機器接続方法だからです。転送速度規格の上限は Firewire400 が 400Mbps、32bit PCI スロットが 266MB/s (2128Mbps) に対して APA がサポートするギガビットイーサネット (GbE) は 1000Mbps です。ただし、この数値を鵜呑みにはできません。GbE は上り下りそれぞれに対して 1000Mbps のデータ転送が可能な「全二重」をサポートしており、エフェクト処理がその仕組み上必ずアクセラレーターに入力 (上り) して出力 (下り) することを考慮すると、GbE の転送速度は上り下り合わせて 2000Mbps に達するからです。

2) APA の場合、お客様がライセンスを所有している Waves Plug-ins の中で APA に対応した Plug-ins を追加費用無しでご利用可能です。つまり現在所有している 1 ライセンスで DSP (Pro Tools HD)、CPU (AU、VST、RTAS/HTDM)、外部機器 (APA) のいずれか、または全てで利用することが可能です。よって APA の CPU 消費量が限界に達した後もホスト CPU に余力があれば、更にホスト CPU のパワーを振り分けることができます。複数台の APA をカスケードして利用することも可能です。

3) APA は最初から HTDM/RTAS をサポートしています。メーカー保証されている Pro Tools の外部アクセラレーターは APA が初めてでしょう。

■ 各モデルのスペックおよび選択基準 現在 APA には 2 つの製品があります。

● APA32

1U ラックマウントタイプの APA です。APA44-M と比べ、価格を抑え購入しやすくなっています。よってマシナールームに Pro Tools システムを導入している大規模スタジオで複数使用されるお客様に特にお勧めです。

● APA44-M

ハーフラックサイズの APA でラックマウントも可能です。AC アダプターで動作します。よってプリプロやモバイル用途にも十分対応します。APA32 と比べ高価ですが、CPU 効率は最大 30% 向上しています。

(尚、両製品共インターフェイスは GbE 端子のみです。)

■ APA 対応 Plug-ins について

APA は幅広いラインナップを誇る Waves Plug-ins 中、APA 対応 Plug-ins が利用可能です。以下がその対応 Plug-ins です：

L3 Multimaximizer	C4 Multiband Parametric Processor
L3 Ultramaximizer	Renaissance Reverb
IR-360 Surround Parametric Convolution Reverb (Mac)*	Renaissance Channel (no external side-chain)
IR-1 Parametric Convolution Reverb V2 *	SoundShifter
IR-L Light Convolution Reverb *	Morphoder
Linear Phase Equalizer	TransX (Multi)
Linear Phase Multiband	Q-Clone *

『 WAVES L3 ボーナスクャンペーン 』

今 Waves 社 APA32 か APA44-M を購入し、弊社にご登録いただくと Waves L3 Multimaximizer (通常 ¥85,050 相当) プレゼントいたします。(11月1日～12月末まで)
従来の Q-Clone (通常 ¥141,750 相当) と IR-L (通常 ¥56,700 相当) もフリーで GET できます。期間限定ですのでお早めにお近くのディーラーよりお求め下さい。

■ Waves L3 Multimaximizer



■ Waves Q-Clone



■ Waves IR-L

ご覧の通り、処理負荷の高い Plug-ins が中心となっています。これは「オーディオエフェクトアクセラレーターは処理負荷の高いエフェクトに使用してこそ意味がある」と判断したからです。Q1 や RenEQ2band を APA で処理することも理論上可能ですが、レイテンシーが高くなるだけでほとんど CPU/DSP 処理に影響しないため、このような仕様になっています。

注目すべきは昨年登場した TDM では動作しない Plug-ins (* のついた Plug-ins) が含まれることです。TDM 非対応のこれらの Plug-ins は、CPU 負荷の高さからオーディオミックス時あまりたくさん使えないのが現状です。これらを APA に振り分けることで、これまでの使用制限が大幅に緩和されます。*印の Plug-ins は特に効果的です。

以上、APA の概要をご覧頂きました。いかがだったでしょうか？音楽制作者の皆様にとって本当に重要なのは、CPU や DSP パワーに依存することなく、Waves のユニークな Plug-ins ソフトウェアを思う存分利用できることでしょう。APA を活用して、よりユニークなミックスにトライしてください！

Pro Tools に因んだちょっと良い話

III プロツーゼブンがやってくるっ！ Pro Tools 7って何？

by Yoshida



■ 独断による“ここがポイント！” 基本編

- マルチプロセッサ・コンピューターのサポートを強化
- より効率的な RTAS プラグイン環境を実現
- ソフトウェアのさらなる最適化

マルチプロセッサ・CPUのサポート強化と、RTAS環境の改良の結果、デュアルプロセッサ・コンピューター上でプラグイン実行数が最大2.5倍にまで向上したそうです。まだ実機を触った訳では無いのでどれ位早くてパワフルなのか体験出来ませんが、期待大ですね。正直 OS9 と比べて非力な CPU だと OSX 自体が重くて Pro Tools のパフォーマンスも下がっていましたから。

● セッションファイルフォーマットの変更

従来の「.pts」が「.ptf」となり、上位互換になります。仕様変更点が多いので致し方無しでしょう。データの受け渡しにはお気を付け下さい。

● Aux インプット及びマスター・フェーダー上で RTAS プラグインをサポート (Pro Tools|HD システム)

TDM 環境での大きな仕様変更の一つに RTAS プラグインがオーディオトラックのみと言う制約を逃れ、自由にアサイン出来る様になりました。これにより、LE システムで作ったセッションとの完全互換に近づいた訳です。逆に RTAS の制約を補う為に作られた HTDM は使用出来なくなりました。

● iLok Key が必要です

Pro Tools HD 7 及び M-Powered 7 Software 起動には iLok key オーソライズが必要になりました。特に追加のプラグインソフトが無くて常時挿しておく必要があります。

● Mac OS ベースコンピューターでは OS X 10.4 (Tiger) が必須

遂に 10.3-Panther ともお別れです。個人的には以外と短かった印象がありますが、これも時代のスピード感でしょうか。細かい事を言うと従来の Pro Tools 『TDM』の表記も Pro Tools 『HD』となり、

既に AES 2005 で発表され、国内では Inter BEE に先駆け楽器フェアにてアナウンスされているとは思いますが、お忙しくて細かくチェック出来ていらっしやらない諸兄姉に「1 ページでわかるシリーズ」の、このコラムにて今回取り上げたいと思います。

「追加機能」を列挙すると、かなり音楽制作 (MIDI 環境) の強化重視の印象も否めませんが、根本的なパワーアップがされているので、すべてのユーザー様がバージョンアップをご検討されて損は無いです。 (お断り：本記事内容は 10 月 18 日現在、メーカーより公表された情報を元に執筆して居ります。仕様変更等、生じた場合は、あしからずご了承下さい。)

■ 追加機能の数々

● トラック毎に最大 10 センド & センド・アサインをドラッグ可能！

複雑な MIX をしていると確かに 5 個だと足りないと思いますよね、今回は 2 倍に増えました。ちなみに表示方法は従来のインサートや I/O の表示、非表示の選択スタイルの形で、1~5 の A グループ、6~10 の B グループに分かれています。そして何と言っても何故か今まで出来なかったアサイン順番の移動、変更がプラグインと同じ様に可能となりました！ (拍手!!) もちろん option キー押しによる複製にも対応です。

● 新たなリージョン・ループ及びリージョン・グループ (オーディオ及び MIDI に両機能とも対応)

従来、同じネタを繰り返すのにコピペやら Duplicate、Repeat コマンドをお使いだったと思いますが、音楽ならフレーズや編集ポイントを変更したい時、SE とかなら繰り返したネタに要らないノイズが入っていたなんて時にすべてやり直しに成り兼ねませんでした。新しいループ機能で作業しておけば、オリジナルの変更に追従させてすべての仮想ループ上?リージョンデータも更新出来ます。グループ機能ですが、こちらはトラックフェーダーのグルーピングと同じく、切り刻んで OK となったボーカルやナレーションを 1 ファイルにする事無くグルーピング出来、当然位置移動に大きな威力を発揮します。

● オーディオ、MIDI、REX、ACID やその他のファイルの、デスクトップからタイムラインへのドラッグ & ドロップをサポート

DigiBase の開発以降、随分とファイル管理、視聴環境が向上しましたが、やはりデスクトップの自分のお気に入りフォルダを開いて使いたいファイルをドラッグするなんてスタイルは、かなり直感的なヒューマン

● REX 及び ACID オーディオ・ファイルで作業可能音楽制作では良くお使いだと思いますが、テンポデータを持ったこれらのファイルが気軽にドラッグ、ドロップ出来てあつという間にオリジナル BGM も作れます。最近では Mac ソフトの Garage Band の感じとお伝えすれば分かりやすいでしょうか。

● 再編成されたメニュー

ブルダウンされる位置がかなり大幅に変わってます。ヘビーユーザーの方は思う存分迷って見つけて下さい。反って新たな発見が出来るかも ^^)

● Pro Tools software のインターフェース上のオブジェクトにポイントを重ねると解説が表示されるツールチップ機能

「インターフェース上のオブジェクトにカーソルを合わせると解説が表示されるため、インターフェースの理解度も向上します」って事でチマチマしたボタンの機能まで憶えてられない方にも朗報のはずです。無理矢理和訳だけは避けてもらいたいですね。

● Pro Tools M-Powered software 対応の M-Audio 機器にラインアップ追加

Black Box、Ozone、Mobile Pre USB、Fast Track USB、Transit が対応し、ますますモバイルを含めた様々な環境での使用選択肢が膨らんでいます。DIGI 純正だけでも悪くないんですけどね、やっぱり電車じゃ 002 はちと重い。

以上、大雑把に独断と偏見で新機能のご紹介をさせて頂きました。ご参考になりましたでしょうか?では、バージョンアップでより快適なプロツローイ

<バージョンアップご案内>

■ Pro Tools 7 Software アップデート及びスタンダード・アップグレード / 「Upgrade PLUS」オプション

アップグレードには、スタンダード・アップグレード、もしくは「Upgrade PLUS」の 2 種類があります。「Upgrade PLUS」は、2005 年 12 月 20 日までの期間限定で Pro Tools 7 へのソフトウェア・アップグレードに加えてプラグイン 2 個を魅力的な価格で入手できます。

無償アップデート対象者

- * Pro Tools|HD システムまたは LE i システムを新規で購入される方
- * 2005 年 9 月 1 日以降に Pro Tools TDM 6.9.x / Pro Tools LE 6.9.x software へのアップグレードを購入された方
- * Pro Tools M-Powered software の登録ユーザーの方

無償アップデート対象となる登録ユーザー様には、その旨を告知する E-mail が送られる予定です。

■ ProTools アップグレード一覧

ソフトウェア	アップグレード	価格
Pro Tools HD 7 Software	スタンダード・アップグレード	50,400円
Pro Tools HD 7 Software	「Upgrade PLUS」オプション	50,400円
Pro Tools LE 7 Software	スタンダード・アップグレード	21,000円
Pro Tools LE 7 Software	「Upgrade PLUS」オプション	21,000円

● Pro Tools HD 7 Software 「Upgrade PLUS」の対象プラグイン (以下から 2 つを選択)

- * DINR
- * ReVibe
- * Pultec Bundle
- * Smack! i TDM
- * Slightly Rude Compressor
- * Synchronic

● Pro Tools LE 7 Software 「Upgrade PLUS」の対象プラグイン (以下から 2 つを選択)

- * Pultec Bundle
- * DINR LE
- * Slightly Rude Compressor
- * Smack! LE
- * Synchronic

ソフトウェア	プラグイン	価格
Pro Tools HD 7 Software	「Upgrade PLUS」対象プラグイン	50,400円
Pro Tools LE 7 Software	「Upgrade PLUS」対象プラグイン	21,000円

導入事例

■(有)マックスマン様 FAZZ Studio

ProControl から ICON D-Command へのアップグレードとワークビデオとして mojo の設置工事を
行いました。

既に ProTools MIX からは HD へアップグレードなさっていましたので、機器の入れ替えは最小限に
押さえながらも、ケーブル等は全て入れ替えをすることにより短期間での工事を行う事が出来ました。
また、今回の工事は有限会社マグロック様のご紹介での工事でした。

ICON Dcommand はコンパクトでありながら最大 5.1 までのサラウンドモニターに対応する事が出
来ますし、中小規模のスタジオには非常にコストパフォーマンスが優れていると感じました。



■ HALF H・P 様 (幡ヶ谷スタジオ)



2 セットの ICON D-Control システムが活躍中

数多くのアニメーション及び外国映画の日本語版制作作業を手掛けてこられた HALF・HP 様が、
2005 年 8 月 5 日に新社屋「BOF 幡ヶ谷 3」をオープンされました。アフレコルームや、プリミック
ス・ルームを併設した 5.1ch 完全対応のダビング・ミックス・スタジオで、日本語吹き替え版の作業を
効果的に行えるよう、プリミックス / ダビングの両ルームに ICON D-Control システムを導入され
このビルだけで ProTools は 5 式導入されています。

ダビング用には 32
フェーダー仕様、プ
リミックス用には 16
フェーダー仕様の

D-Control をフィーチャーした、計 2 セットの ICON システムです。
フェーダー数とスピーカーの種類以外は全く同じシステムにするよ
うリクエストされ、どちらも Pro Tools|HD 3 Accel、192 I/O x 3
台 (192 Digital I/O を含む) と SYNC I/O、PowerMac G5 とい
った設定で、プリミックスとダビングで全く同じ環境を使用できるよ
うになり、作業効率も、また互換性も向上されています。



■東京テレビセンター様



マシンルームに APPLE XserveG5 と XserveRAID を導入設置させて頂きました。

データのバックアップが主な利用方法ですが、大容量ディスクに対すると安全性とデータ転送時の速さが高速
である事を重要視した結果の導入です。

タイトルごとに ProTools のセッションデータや効果音をフォルダにし、必ずテキストでメモを中に入れ保存し、
一定期間 (東京テレビセンター様では 2 週間程度だそうです) 保管するそうです。そして、ProTools で作業し
ている MA の 6 クライアント (スタジオと作業する場所) だけで共有しています。

運用しはじめてからは、1T (1000G) 程度が常に RAID にデータが保管されているそうです。そのデータ
は作業が終了時もしくは ONAIR が終了したときに消去したり、他メディアにバックアップをしてクライアント
に渡すそうです。パッケージ作品は作業終了後、他言語への MA がある場合もあるのでクライアント様との保
管期間の話をする事もあるそうです。

今はファイルサーバーとしての運用がメイン、今後は映像データのファイル化と共に RAID の増設も考えられま

■東海テレビ放送様 MA 室一新

この度 MA 室 3 部屋とプリプロルーム 5 部屋のシステムを移設し、ネットワーク構築をされました。

MA 室は全部屋に ProTools HD Accel とを。プリプロルームには DIGI002 でカノープス社 ADVC110 で映像もデータ化しております。また Apple XserveG5
を導入し、FTP サーバサービスで、DENON 社のデジタルレコーダーや映像データを含む全ての ProTools データを全部屋で共有しております。

転送に GigabitEthernet を利用しておりますが速度に問題は無く、映像データも Xserve 上のファイルをプリプロルーム 3 部屋の ProTools で同一データを利用
しても問題ありませんでした。

この最先端のネットワーク構築には
東海テレビ様のお力なくしては実現
できなかったでしょう。



■ PM エージェンシー・ハイウェーブ新社屋内 STUDIO G 様



このスタジオは沖縄県内において初の ICON D-CONSOLE をメインとしたレコーディングルームです。メインスタジオ1つと隣接するブース3つ コントロールルーム脇にボーカルブースを備え、県内最大級（おそらく国内でも）のスタジオ設備となっております。

弊社は今回、このスタジオに Digidesign 及びそのコンソールソリューションである ICON D-CONSOLE を核としたレコーディングのシステムを導入させていただきました。

ミキサーを ICON D-CONSOLE main と 16 フェーダーを追加した 32 フェーダーと

し、Digidesign HD3Accel を基本とし、ProToolsVer6.9以降の追加機能である ICON を使用したミキサーのインラインモードを使用したレコーディングシステムのご提案をさせていただきました。

コミュニケーションシステムとして AVIOM のパーソナルミキサーを使用しております。レコーダーとしての ProTools の利便性を ICON D-Control をメインコンソールにする事で伝統的な機材を使いながらも作業効率を上げる事ができるでしょう。



天井高があるスタジオ



新社屋全景

■ リハーサルスタジオ StudioVOX 中野サンプラザ店様

中野サンプラザ地下1階にリハーサルスタジオ StudioVOX が OPEN しました。

弊社はここのレコーディングスタジオに ProTools システムとして ICON D-Command24 フェーダー仕様とアウトボードを含むレコーディングシステムをインストールいたしました。

このリハーサルスタジオは大阪・谷町にある StudioVOX 谷四店に続く2店舗目です。

谷四店もかなり大型のリハーサルスタジオと聞いていますが、この中野サンプラザ店も小さいブースが7部屋、中大規模のブースが10部屋、と karaoke ブース、mix ブース、メインスタジオと小さいブースを2部屋持った今回のレコーディングルームと全部で20部屋もあります。個人練習から、バンドの録音までが出来ます。これをお読みになっている方でバンドを組んでいらっしゃる方は、是非お使いになってみてください。



■ (有) ワイルドミュージックスクール様

レコーディングスタジオに、digidesign D-Command Music バンドル（他）を導入させて頂きました。メインコンソールである NEVE 社 V3 コンソールの左セクションに D-Command 24 フェーダーシステムを置かれている（しかも特注のストラクチャーテーブルでコンソール上を動かします！）という大胆な発想も学校長である『つのだ☆ひろ』様らしい斬新なアイデアであり、ビンテージアナログと最先端デジタルの融合が理想的になされているスタジオとなっております。

ワイルドミュージックスクールは総合音楽学校で、日々著名なアーティストが顔を出しているそうです。

詳しくはホームページにて『<http://www.wildmusic.jp/>』

■ (株) IMAGICA 麻布十番スタジオ様



この度 IMAGICA 麻布十番スタジオを新設オープンされました。MA室 5.1ch 対応で、SSL C-200 コンソールですが、弊社からは、ProTooleHD+LE システム&プラグインと TC System6000 や各種エフェクター&マイクロフォン等を納入させていただきました。

こちらのスタジオは、プラグインソフトも充実しており、CM 対応の新拠点として稼働され始めました。

又、IMAGICA 赤坂ビデオセンター様でも MA8 がこの度増設され同様の機材が入りま



赤坂ビデオセンター 8MA



工事中 10月末完成予定

■ NHK802 スタジオ 様

ICON コンソール D-Comand と AV オプション V10 を含めたシステム導入 昨年の 801 スタジオに続き 802 スタジオの設備が導入され 11 月からの運用開始に向け工事中です。このスタジオでは、整音室に放送局で初の ICON D-Comand を導入され、大河ドラマの制作編集他に向けて準備中です。機材は、WindowsPC で AVID ファイルとの互換とネットワーク化が考えられており、メイン + 整音室にそれぞれ V10 とプラグインソフト（特にノイズ除去）の充実化がはかられています。



■弊社オリジナル 業務用 FireWire HDD 「TD-250F」

SCSI HDDでおなじみの「TDシリーズ」と同じ日本製のアルミシャーシと電源ユニット、空冷ファンを採用。放熱と静音性を両立させ、業務用として十分な信頼性のある FireWire HDD をご用意しました。保証期間は「TDシリーズ」と同じく3年間（ハードディスクドライブは1年間）インターフェースは「IEEE1394 (FireWire400)」が2基で、記録容量は250GB。フェライトコア付きの FireWire ケーブル (6pin) が付属します。ドライブは ProTools などでの使用時に最良のパフォーマンスが得られる機種を選定しました。もちろん弊社製「RM-2T」ラックマウントアダプターに対応します。



*インターフェース: IEEE1394 (FireWire400) x2
*寸法: W180 x H63 x D230(mm)
*重量: 約 1.9kg

■ TAC TD-250F 希望小売価格: ¥70,000 (税別) ¥73,500 (税込)

■ URS 社 URS Classic Console Compressor Bundle

URS Classic Console Compressors は、最も人気のある2機種の英国製バスコンプレッサーをデジタルで復元しました。

● URS 1970 Classic Console Compressor

トランス入力回路からダイオードブリッジ型ゲインリダクションアンプを通過した"あの"サウンドをデジタルで再現しました。そのキャラクターは滑らかで暖かです。

● URS 1980 Classic Console Compressor

IC 入力部から電圧制御アンプ (VCA) 型のゲインリダクションアンプを通過したサウンドをデジタルで再現しました。

両プラグインともに、ビンテージサウンド (キャラクター) はそのままに、自由に可変出来るレシオやアタック/リリースタイムなど、強力な機能を追加しています。コンプレッサー部とリミッター部は完全に独立した設計となっています。それぞれアタック、リリース、スレッシュホールドを調節できます。また、サイドチェーン用に内蔵されたハイとローパスフィルターにより、音源に対する Compressor の動作を細かくチューニングすることが可能です。Listen キーはフィルター部の後に位置します。このキーによりゲインリダクション検知回路に送られる信号を試聴することができます。また、コンプレッサーのみの省エネバージョンも付属します。

URS 1970 Classic Console Compressor



URS 1980 Classic Console Compressor

■ URS Classic Console Compressor Bundle (1970 Classic Console Compressor + 1980 Classic Console Compressor) TDM 版 価格 ¥115,500 (税込) / NATIVE 版 価格 ¥60,900 (税込)

NEW Bundle

■ URS Classic Console Compressor Bundle + Classic Console EQ Bundle (1970 Classic Console Compressor + 1980 Classic Console Compressor + A Series + N Series) TDM 版 価格 ¥199,500 (税込) / NATIVE 版 価格 ¥105,000 (税込)

■弊社オリジナル TAC-ICON 用カフ / トークバックシステム

■パッケージ価格: ¥500,000 (税別) ¥525,000 (税込)

TAC オリジナルとしてこの度 ICON 専用カフ / トークバックシステムを発売しました。

(詳細は別紙カタログをご覧ください。)

[特徴]

■ Digidesign 社 ICON 統合コンソール用の専用高機能カフ・システム

- 本体と操作部を分離。音声信号を本体内部だけで処理することにより信号劣化を防止
- 2ch 分の回路を内蔵。操作部 1 台でのステレオ動作、2 台でのモノラル 2ch 動作が可能 (2 台目オプション)
- カフ操作部は、タッチ・スイッチにより使いやすさを追求 (オプションで FU「Fading Unit」に変更可)
- アナ・プース側からコントロール・ルーム側へのバック・トーク機能付
- ICON 専用パネルを使用する事で本体を改造せず USB 接続で任意のマウス / トラックボールと接続可
- カフの ON/OFF 時にスタジオモニタを OFF/ON する機能と、カフ OFF でも専用パネルで強制的に ON する機能装備
- ICON 専用パネルには、CUE スイッチ装備



■ ジャパンシステム MOJO ラック

■ ジャパンシステム RA-MK 希望小売価格: ¥88,000 (税別) ¥92,400 (税込)

Protools で AV オプション MOJO を導入される方への便利グッズです。

ラック収納する場合、縦置きだと場所をとり、横置きでも座りが悪くコネクターが外れやすいといった事を解消する 1U ラックマウントキットです。

ケース内に収納し背面に必要なコネクターがすべて接続できるようになっており、天板に放熱スリットがあげてあります (上部に 1U 空気層をあける事をお勧めします)

[仕様]

1U ラックマウントサイズ
奥行 404.1mm (コネクター突起をのぞく、ラック面から背面まで)
電源スイッチ (フロント面)
背面コネクター
Input :
Ref-VIDEO, S-VIDEO, VIDEO, AudioL & R
Output :
S-VIDEO, VIDEO, AudioL & Rx2
DV コネクター x1
HOST (FW400 ポート) x1
AC コネクター



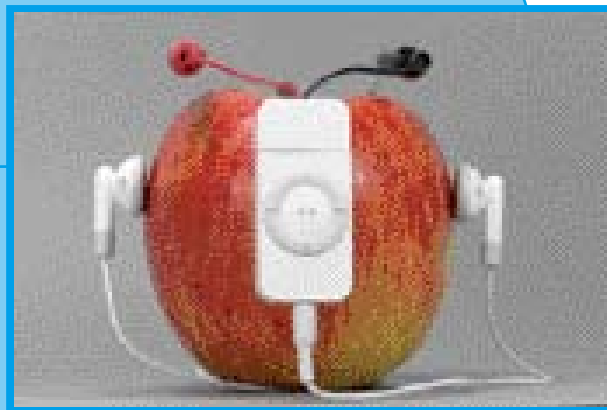
»» 大災害に備えて！？

「リンゴ電池で iPod Shuffle」の巻

「街を歩けば iPod に当たる」というくらい爆発的に普及している携帯音楽プレーヤー iPod。低価格でありながら大容量で小型といったソリッドプレーヤーの特長に加え、白を基調としたデザインのカッコ良さが話題となり若者を中心に人気を呼んでいます。まさに iPod が登場したおかげでソリッドプレーヤーの時代が到来したといっても過言ではないでしょう。

そんな人気者の iPod ですが、ひとつだけ困ったことがありました。それは iPod の電源が「乾電池に対応できない」ということ。従来のカセットや MD プレーヤーでは充電が切れてしまった場合、どこでも手軽に購入できる乾電池を使用して音楽を楽しむことができましたが、iPod ではこれが出来ません。ということは万一、災害などでコンセントが使えなくなった場合、それはすなわち音楽生活の最期を意味することになります。

そこで「音楽ナシの生活なんてあり得ない」といった要望に応えるべく、自然のエネルギーを使用した電池を使って iPod Shuffle を再生することに挑戦してみました。



これが今回の犠牲となった iPod Shuffle。内臓の充電電池を取り除かれ、オリジナルより約 30%小型化に成功。いつの間にか USB 端子までもが取り除かれて書き換え不能になった点についてはご愛嬌ということ

電池の材料になる「リンゴ」はもちろん青森県産のサンつがるを使用。贅沢にもメイド・イン・ジャパンにこだわった。6セルの電池を構成するため7つに切り分ける。電気が通りやすいよう薄く切るのがコツ。

切り終わったリンゴは塩水に浸しておく。とはいえこれも「リンゴを長持ち」させるためではなく電解液としての効果を期待してのこと。おばあちゃんの知恵袋ならぬ技術屋のジャンク袋とでもいったところか。



準備が整ったらいよいよ電池の組み立てだ。アルミ箔→リンゴ→銅箔→アルミ箔の順番で積み重ねていき、サンドイッチを作る。この時リンゴが崩れやすいので気をつけよう。

完成した電池に LED をつなぐと、とても明るく輝いた。テストを当ててみると 3.315V を指示。iPod も動きそうな電圧に思わずニヤリ。これならきっと大丈夫だろうと期待に胸を膨らませるが…

…ピクリとも動かない。それどころかリンゴからプチプチと泡が発生。周囲は強烈な酢酸臭に包まれ緊急事態に。とりあえず一息ついてリンゴのおやつを。しかしこのリンゴはイオン化した金属が溶け出ているため、食べることは素人にはお薦め出来ない。

残念ながら失敗に終わってしまった「リンゴ電池」。よく調べてみると、iPod Shuffle は電源投入の瞬間に 50mA くらいの大電流を必要とし、3.3V あったリンゴ電池の電圧が一気に 1.7V くらいまで低下してしまっていたのが原因のようだ。これを解決すべく電極板を性能の良いステンレス板+亜鉛板に変更したところ開放電圧 5.5V が得られたが、それでもまだ不足のよう。その後リンゴを硫酸浸けにすることを思いついたが、ここまで考えたところで筆者が「もはやこれはリンゴパワーではない」ということに気づいたため、実験はあえなくここで終了となった。

なお、理科の実験でおなじみなのは「レモン電池」なのにここであえて「リンゴ」を用いた理由は、みなさんのご想像にお任せしたい。

T
E
C
H
I
S
F
I
L
E
O
F
D
R.
N
I
T
S

>>> 劇団四季様「李香蘭」「異国の丘」Royer リボンマイク導入



リボンマイクの可能性「プラス編」
劇団四季 様

日本全国に 8 つの専用劇場を持ち、年間のステージ数は 3000 回超を誇る、劇団四季。戦後 60 年の 2005 年「昭和の歴史三部作」が連続上演されています。

その三部作の「ミュージカル李香蘭」と、現在公演中の「ミュージカル異国の丘」で Royer が使用されています。

「李香蘭」では 20 人編成のオーケストラの中で、R-122 をトロンボーン、オーボエ、クラリネット。R-121 をトランペット×2 本、フルートの取音に使用。今までにない音色と好評を得ました。

劇団四季 音響 千葉さんによると、存在感のあるマイクですね。音のぬけが良く、スッキリした音が出る。プラスは、今まではコンデンサーマイクを使用していたのですが、かぶりが多く派手でケバだった音になりがちです。しかし、Royer は今までにない、しっとりとした澄んだ音が出る。モコモコした感じが無く、音が素直。他の楽器に埋もれることもありません。音楽が劇の邪魔をせず、とけ込みしっかりした音色が出ますね。・・・との事。

プラスにおけるマイク選びをいつも悩むというエンジニアの皆様。ぜひ Royer のマイクを体感下さい。その豊かな音色に納得するでしょう。



>>> 佐藤 竹善さん「New アルバム」にて selected TD-1

レコーディングエンジニア
藁谷 義徳 さん

～歴史に残りそうな DI ですね。～

何か違う DI を探していて、Millennia が候補に挙がりました。

以前、ベースを録音する時に HV 3 を使って気に入っていて購入しようと思っていたのですが、TD-1 が発売され、HV3 のマイクプリアンプが標準仕様でついてましたし、ベースを接続した時、低域の太さが他の DI に比べて良いので気に入りました。

最近では佐藤竹善さんのアルバムでにベースで使用しました。

ギターでは DI ではもちろんのこと、REAMP も使いました。

ベースから TD-1、TD-1 のアウトを NEVE1073 の LINE IN に。ベースは LINE だけの時もありましたし、AMP と LINE 録りを混ぜて使ったりもしました。

DI インput は、主に FET アンプを利用しました。ボクには TUBE よりも FET のほうが粒立ちがはっきり見えてきたからです。TD-1 は、入出力が充実していますしグランドの多さ、何より NSEQ-style の EQ で音作りできるのはいいですね。

ギター、ベースだけでなくの楽器にも使用できるのもいいですね。

ミュージシャンにも評判がいいですよ。ミックスの時のベースの存在感が全然違いますよ。ミックスで音をさらに太くする傾向が減ったので、低域の処理が楽になりましたね。

ビンテージになりやすい機材、歴史に残りそうな DI だと思います。



Ethernet のうんちく話 (その 1)

昨今、コンピューターのみならず音響機器等にも多用される Ethernet。皆さんも既に暗黙の了解で使用しているこの言葉の語源はいったい何か？同様に Cat5、カテゴ、キャットファイブと呼ばれるこの規格とは？実際どんなケーブルなの？そんな疑問を解くうんちく話を 2 回に分けて解説します。今回はその 1 回目で語源と歴史についてふれてみます。



■ Ethernet の語源

語源はアイテル (aither)。ギリシャ語で天空の空気を意味します。19 世紀には空間を満たしているこの物質をエーテル (Aether) またはイーサー (Ether) と呼ぶようになりました。音が空気を伝わるように光はエーテルを伝わってくると考えられていました。後にコンピューター用語として、このどこにでも存在すると考えられていたエーテルの名から付けられ、Ethernet として広く使われるようになりました。

■ Ethernet の歴史

Ethernet が開発された背景について少し紹介します。Ethernet の起源はハワイ大学で開発された「Aloha-NET」が起源と言われています。しかし、この時の Aloha-NET とは島と島を無線で結ぶパケットネットワークとして開発された物で、現在の Ethernet とは少し意味合いが違っていました。

後の 1973 年に Aloha-NET 開発に参加していたロバート・メトカフ博士が、この技術を Xerox (ゼロックス) 社にて Xerox のコンピュータ「Alto」同士を繋ぐための技術として「Alto Aloha ネットワーク」に応用しました。この Alto Aloha ネットワークの技術こそ現在の Ethernet の起源です。ちなみに。このころの通信速度は 2.94Mbps 程度だったようです。

その後、Xerox の他に Intel と DEC が参加した共同プロジェクトへと発展し、1979 年には 3 社の頭文字をとった DIX 仕様と呼ばれる、10Mbps の規格 (DIX-Ethernet 1.0) が策定されました。3 社はこの DIX-Ethernet を IEEE に提出し 1983 年に最初の 802.3 規格が制定されました。元々 Ethernet という表現は 10Mbps タイプの規格名称だった様ですが、現在は 100Mbps や 1000Mbps のものまでさまざまなバリエーションが用意されており、それをすべて含んだ総称としての意味合いが強まっているようです。

今回は Ethernet の伝送に使用されるケーブルについて解説いたします。皆さんは Ether ケーブルの扱いにくさに疑問を持ったことがありませんか？オーディオケーブルのようにしなやかな Ether ケーブルを見たことがない！！もっと丈夫にできないのか？等といった不満は既存のケーブルで解決ができそうにありません。それには簡単に解決出来ない重大な理由があったのです。うんちく話その 2 を楽しみにしててください。これを読むとあなたもちょっとした物知りになるかも ...

[新人紹介]

このたび、新入社員として 10 月から入社しました菊池 圭介と申します。技術部の先輩、吉田 潤さんのもとでシステム等の勉強をしています。覚える事がたくさんあり、付いていくのがやっとなのですが、とてもやりがいのある仕事なので毎日が楽しいです。まだ右も左もわからない状態ではありますが、その時は皆様のご指導を受けながら日々精進して行きたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

INFORMATION

■ 2005 国際放送機器展

Inter BEE 2005 国際放送機器展が例年通り幕張メッセにて開催されます。

今年もプロオーディオ部門で新製品を多数加えた展示を行います。是非ご来場ください。

日時：
11 月 16 日 (水) 10:00 ~ 17:30
11 月 17 日 (木) 10:00 ~ 17:30
11 月 18 日 (金) 10:00 ~ 17:00

会場：幕張メッセ (日本コンベンションセンター)
弊社展示ブース：ホール 3 # 3308 プロオーディオ部門
入場料：無料 (登録制)

みどころ：

- ICON を始め、ProToolsHD システム関連のプラグインや周辺機器の紹介。
- 初出展 WAVES APA / MaxxBCL
- より多くの Waves プラグインをよりパワフルな環境で使いこなせるアウトボードユニット「APA」3 つのプラグインを 1 台のハードウェアに凝縮「MaxxBCL」
- 初出展 SE Electronics
- ヨーロッパでの No1 ブランド。
- コンデンサーマイク 2 種、チューブコンデンサーマイク 3 種。
- 初出展 Tranzport 遂に登場！DAW ワイヤレスコントローラー
- AVIOM 新プロダクト Pro64 のご紹介
- Millennia、Royer、TAC System オリジナルのネットワークやデータストレージ系の機器等を展示いたします。



発行・編集元 不許複製

タックシステム株式会社

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-5-1 Email: info@tacsystem.com
TEL: 03-3442-1525 FAX: 03-3442-1526 HP: http://www.tacsystem.com